

## [災害統計]

# 平成25年における車両系建設機械等による死亡災害の発生状況

### ■平成25年における車両系建設機械による死亡災害の発生状況

平成25年に発生した車両系建設機械及び高所作業車等に起因する労働災害による死亡者数は56名であり、平成24年(61名)と比較して5名減少(▲8.2%)している。

業種別・機械の種類別の死亡者数は表1のとおりである。

機械の種類別では、「掘削用機械」に起因するものが30名(53.6%)と最も多く、次いで、「整地・運搬・積込み用機械」の9名(16.1%)の順になっており、2機種で全体の69.6%を占めている。また業種別においては、建設業(土木工事業、建築工事業、その他建設業)が全体の69.6%を占めている。

表2は、機械の種類別・事故の型別に分類したものであるが、事故の型では、「激突され」が15名(26.8%)、「はさまれ・巻き込まれ」が14名(25.0%)、「墜落・転落」が11名(19.6%)次いで「転倒」の6名(10.7%)と多く、この上位4つの事故の型で全体の82.1%を占めている。

このように、車両系建設機械等による災害の傾向は、順位の入替わりが在るものの、例年と変わらず、機械の種類別では、掘削用機械による災害が、業種別では建設業が圧倒的に多い。

一方、事故の型別では、「激突され」、「はさまれ・巻き込まれ」、「墜落・転落」の順で多く発生している。また、「交通事故(道路)」が3件、「おぼれ」によるものが1件発生している。

(情報提供：厚生労働省)

表1:車両系建設機械等による機械の種類別・業種別死亡災害発生状況(平成25年)

(単位:人)

機械の種類	業種									
	製造業	鉱業 土砂採取業	土木工事業	建築工事業	その他の 建設業	道路貨物 運送業 陸上貨物 取扱業	農業 畜産業 水産業 林業	商業 卸売業	その他の 事業	計
整地・運搬・積込み 用機械	2	1	2	2	0	1	0	0	1	9
掘削用機械	3	1	18	4	2	0	0	0	2	30
基礎工事用機械	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
締固め機械	0	0	1	0	0	0	1	0	1	3
解体用機械	0	0	1	0	1	0	1	0	0	3
高所作業車	0	0	0	1	3	0	0	0	1	5
その他の建設用機 械	0	0	0	3	1	0	0	1	1	6
合計	5	2	22	10	7	1	2	1	6	56

表2:車両系建設機械等による機械の種類別・事故の型別死亡災害発生状況(平成25年)

(単位:人)

機械の種類	事故の型									
	墜落・転落	転倒	激突	飛来・落下	崩壊・倒壊	激突され	挟まれ・ 巻込まれ	おぼれ	交通事故 (道路)	計
整地・運搬・積込み 用機械	1	0	1	0	0	4	3	0	0	9
掘削用機械	9	2	1	4	0	7	4	1	2	30
基礎工事用機械	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
締固め機械	1	0	0	0	0	0	2	0	0	3
解体用機械	0	2	0	0	0	1	0	0	0	3
高所作業車	0	1	0	0	0	0	3	0	1	5
その他の建設機械	0	1	0	0	0	3	2	0	0	6
合計	11	6	2	4	0	15	14	1	3	56